

やさしすぎる! VBA入門



Excelの標準機能「VBA」を利用し、プログラム作りの初歩を学ぶ本講座。画面例は2003のものだが2007でも同様に試せる。今回は繰り返し処理を使い、色番号が分かるカラーパレットを作ろう。

伊藤 華子 = フリーライター

第5回 条件満了まで同じ処理を繰り返す

●カラーパレット表示の準備をする

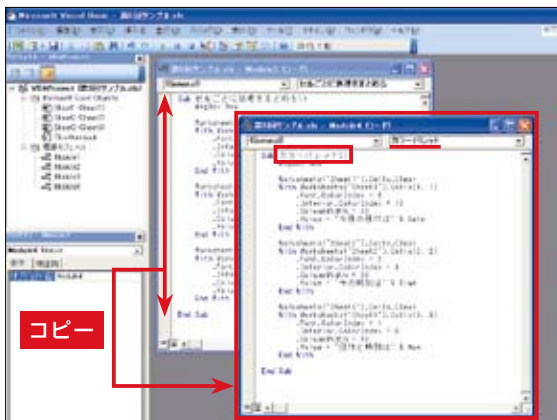
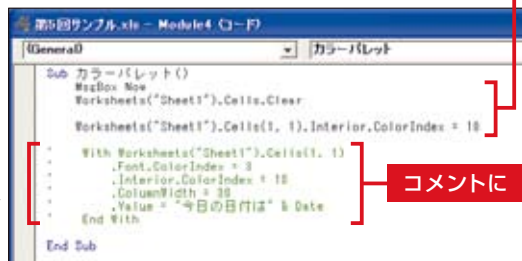


図1 VBエディターの「挿入」メニューから標準モジュールを新規作成し、前回作ったモジュールの命令文をコピーした後、モジュール名だけを書き換える

図2 「Sheet1」に関する命令文をコメントにして残りを消す。冒頭のメッセージボックスとワークシートをクリアする文、A1のセルを塗りつぶす命令文の3つを有効に。誌面ではコメント部分も省略する



有効にしておく

コメントに

●この値からあの値まで繰り返す「For」文

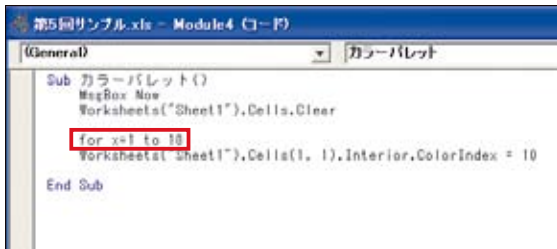


図3 A1のセルを10番の色で塗りつぶす処理を行う命令文の前に、「for」というキーワードで始まる語句を追加する

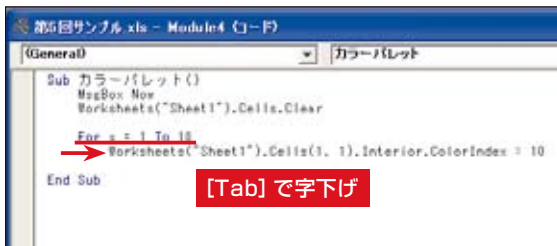


図4 「for x=1 to 10」と入力して[↓]キーを押す。文法チェックにパスすると、命令文の体裁が整えられる。セルを塗りつぶす命令文の冒頭で[Tab]キーを押して字下げする

前回は、同じセルに対して実行する複数の処理を、「With」と「End With」の間にまとめて書いた。今回は、ある条件を満たすまで、決まった処理を繰り返し実行する命令文を書いてみよう。今回も新しい標準モジュールを作り、前回の命令文をコピーして再利用する。モジュール名は書き換える(図1)。

新しいキーワードを覚えるので、今回もシンプルな命令文から始めよう。「Sheet1」に関する部分のみコメントとして残し、ほかのシートに関する命令文を削除する。続いて、前回With文にまとめた命令文を、逆に分解するつもりで、キーワード「Interior.ColorIndex」に色番号「10」を代入し、A1のセルを塗りつぶす(図2)。コメントとして残した命令文を流用するとラクだ。

「For~Next」の書き方は

決まった処理を繰り返すためのキーワードとして、今回は「For」を使う。「for x=1 to 10」と、数学の方程式さながらに「x」の値を1~10まで変化させるのだ(図3)。

[↓]キーを押すと文法がチェックされ、問題がなければ大文字/小文字などの体裁が整えられる。誌面だと分かりづらいが、「for」と「x」の